

所信

一般社団法人東海青年会議所
2026 年度理事長予定者 蟹江 直矢

はじめに

1949 年、終戦から僅か 4 年。戦後復興という社会情勢が混沌とする中で、「新日本の再建は我々青年の仕事である」という志を掲げ、国内経済の発展と国際経済との緊密な連携の必要性を認識し、その使命感と責任感に駆られた青年有志によって、日本青年会議所の運動が幕を開けました。この熱き理念は瞬く間に全国に広がり、数多くの地域に次々と青年会議所が設立されました。そして 1969 年、我がまち東海市にもその運動は伝播し、全国 410 番目の青年会議所として東海青年会議所は産声をあげました。知多郡上野町・横須賀町が新設合併し、東海市がこの地に誕生した僅か 3 か月後の出来事でした。それ以来、今日に至るまで 57 年の長きに渡り、東海青年会議所は英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会の実現に向け、常に青年世代の代表として、数多くの地域開発運動を行って参りました。時には未曾有の大災害や未知のウイルスの発生により、社会情勢が乱れようとも、先輩諸兄姉はその情熱の火を絶やすことなく、地域の明るい未来に向け歩みをやめなかったのです。しかしながら、時代の移り変わりとともに「個」を重視した風潮が高まり、「JC しかない時代」から「JC もある時代」と言われるようになりました。

今、日本は深刻な局面を迎えております。類を見ないほどの人口減少、急激な物価高、近い未来起こるとされている大災害。例を挙げればきりが無いほど、解決しなければならない課題は数多くあります。それら数多くの課題は、未来を創造していく我々青年世代が目を見守るわけにはいかず、一人ひとりが覚悟を持って取り組む必要があるのです。まさに今、地域の明るい未来を真剣に議論する青年世代、いつの時代も変わらない人間の本質的な価値を高めることが出来る団体、つまり JC が世の中には必要なのです。

2026 年度は、事業を通じそれらの課題解決に向けたきっかけを幅広く展開する上で、JC の存在意義を再定義し、常に JC の価値を追求して参ります。そして、物事を本質的に捉えることで、地域にとってかけがえのない存在となり続け、同時に会員一人ひとりが東海青年会議所メンバーであることに強く誇りを持てる一年を築いて参ります。

しなやかで力強い組織運営

青年会議所は明るい豊かな社会の実現に向け、日々活動をしております。その活

動が揺らがぬよう、組織運営や財務管理は全ての活動の根幹を担う最も重要な要素だと言えます。青年会議所は「会議所」の字のごとく会議を主体とし、人事や事業を含め全てのことを理事会や最高機関である総会といった会議で決議されます。その基本は時代が変化しても決して変わることはありません。精度の高い運動を構築していくためにも、青年会議所組織の核となるメンバー一人ひとりが伝統ある東海青年会議所の一員としての自覚や志を強く持つ JAYCEE となるよう努めなければなりません。自分一人のためではなく、多くの青年会議所メンバーが思いやりと先施の心を持つことで、信頼関係は構築され、組織力は高まっていきます。常に厳格でありながらも、本質を見極め、時代に沿ったしなやかで力強い組織運営を行うことで、地域の未来を創造出来ると確信しております。

まちづくりは主権者意識から

現在、日本は様々な苦難に直面しております。類を見ないほどの人口減少、超高齢社会における国民負担率の増加、停滞し続ける経済、賃金上昇に見合わないほどの物価高、度重なる甚大な大災害。山積みの課題の中で、多くの自治体やコミュニティが解散し、「個」が優先され、世の中で起きている出来事を他人事と捉える風潮が高まりつつあるのではないのでしょうか。歴史を垣間見ても、いつの時代も様々な地域の課題を乗り越えることができたのも、地域を想う能動的な市民の存在です。

今こそ、地域に住み暮らす一人ひとりが主体的かつ能動的に地域の未来に向き合う必要があり、地域一丸となって議論し合い、まちづくりに励む必要があるのではないのでしょうか。我々青年世代が市民に対し、主権者意識の向上に努めることで、「我々のまちは我々が支えていく」という気概を醸成することが必要だと考えます。一人でも多くの地域の未来創造に能動的な市民が増えることで、今後どんな困難があろうと乗り越えていけると確信しております。

先施の心を持つまちへ

人が生きていく上で決して忘れてはならないことがあります。それは、相手を思いやる気持ちです。相手を思いやる気持ちとは、「先施の心」を持つということに他なりません。「個」が重要視されている世の中において、どんなに科学技術が発達しようとも、人が人である以上、変わらない人間の普遍的な価値を伝え続けていくことが重要なのではないのでしょうか。

人は年齢を重ねるにつれ、それぞれの段階で成長をしていきます。その過程で最も大事な時期が、人格が形成され習慣が身に付く幼少期です。習慣とは、習い慣れると書きます。繰り返し習い、それが決まりのように体の中に染み込み、意識せず

に行いに現れることです。人を思いやる「先施の心」が地域の未来を創造する子ども達に、習慣化するようなきっかけを育むことで、自分ではなく誰かを想う気持ちの連鎖が生まれやすくなり、地域の未来はより明るくなっていくと確信しております。

会員拡大こそ最大のまちづくり運動

日本全国では、700 弱の LOM で約 25,000 人の志を同じくするメンバーが地域の未来のために日夜躍動しております。しかしながら、会員数は年々減少しており、その余波は東海青年会議所でも顕著に現れております。その要因は多岐にわたりますが、メンバーの約 9 割が会社経営者もしくはそれに準ずる役職に就いている方である以上、青年経済人として青年会議所に所属する価値を議論し続けていく必要があります。JC 活動を通じて得ることができた良き人脈や知識、他では得られない成功体験や経験は青年会議所活動の価値そのものです。青年会議所活動を能動的に継続すればするほど、その価値は目に見える形で現れます。その魅力を一人でも多くの青年世代へ伝え、共感の輪を地域に広げていく価値は高いと言えます。

青年会議所は所属しているだけで、地域の未来について語り合う時間を確保でき、実践という形で地域を創造することができます。一人でも多くの参画者が増えることで、必然的に地域の未来を創造する人財がこの地域に育つことに繋がります。つまり、会員の拡大こそがまちづくり運動の第一歩であると同時に、最大のまちづくり運動と言えるのです。我々が誇りに思うこの青年会議所活動の本質的な価値を地域に伝え、メンバー全員拡大で共感の輪を広げることで、地域の明るい豊かな社会の実現に向けて大きく前進すると確信しております。

むすびに

私が東海青年会議所に入会して早 10 年の月日が流れました。入会当初は活動目的が定まらず、ただ与えられた課題をこなしていく日々でした。しかし、様々な役職をいただき、活動を能動的に継続していくことで、長い歴史を持つ東海青年会議所の輝かしい伝統と素晴らしい価値を目の当たりにするとともに、常にリーダーシップの開発の機会と多くの成長の機会をいただいていた参りました。同時に、多岐に渡る活動を通じて、多くのメンバーと真に語り合うことが出来る友情を育むことができました。今日の私が存在するのも、青年会議所活動の賜物であると言っても過言ではありません。

この地で生まれ育ち、敬愛してやまない多くの先輩諸兄姉にいただいた御恩や学びを、恩送りという形で次代へしっかりと紡いでいかなければならないという使命

感と、人生において社会的に機が熟す 20～30 代に、青年会議所活動に心血を注ぐ覚悟をしていただいたメンバーに対する責任感を持って、活動を展開して参ります。

為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり
いかなる時も勇なる心で一年間活動を邁進することをお誓い申し上げます。